

重茂館遺跡群

—第2次発掘調査報告書—

2012.3

岩手県宮古市教育委員会

重茂館遺跡群

—第2次発掘調査報告書—



重茂館遺跡群

2012.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

重茂半島ではこれまでいくつかの発掘調査が行われてきました。その調査ではたくさんの住居跡、土器などがみつき、はるか昔から人々が住み続けてきたことが分っています。今回の調査では、学校の建設に伴い校庭が調査の対象となりました。その結果住居跡などの遺構は見つからなかったものの、一部に旧地形が残っていてそこから土器が多数出土しました。縄文時代でも古い時期のもので、重茂半島の縄文時代の人々の生活の広がりや年代を確かめる貴重な資料となります。

これらの貴重な資料が広く活用されることを願うとともに、調査に協力いただいたかたがたに感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月

宮古市教育委員会
教育長 佐々木 敏 夫

例 言

1. 本書は、宮古市立重茂小学校の建設に伴い平成 20 年に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査の主体は宮古市教育委員会である。平成 20 年の調査は鎌田、長谷川、江口、阿部が担当し、本書の編集、執筆は阿部が担当した。
3. 遺構平面図には任意の座標を用いたが、高さは標高値をそのまま使用した。
4. 出土した遺物、実測図、写真など調査に関わる資料は、宮古市教育委員会が一括して保管している。

目 次

序文

例言

目次

調査経過	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査要旨	1
3. 調査体制	1
4. 遺跡の立地と環境	2
調査内容	4
1. 調査の方法	4
2. 基本層序	4
3. 検出した遺構、遺物	8
4. 調査のまとめ	14
写真図版	17
報告書抄録	22

図版目次

第 1 図	宮古市位置図	2
第 2 図	地形分類図（重茂館遺跡群と周辺の遺跡）	3
第 3 図	重茂館遺跡群と調査地点	4
第 4 図	調査区位置図	5
第 5 図	調査区全体図	6
第 6 図	調査区土層断面	7
第 7 図	小土坑群平・断面図	9
第 8 図	出土遺物	10
第 9 図	出土遺物（1）	11
第 10 図	出土遺物（2）	12
第 11 図	出土遺物（3）	13
第 12 図	出土遺物（4）	14

写真図版目次

写真図版 1	試掘調査	17
写真図版 2	試掘調査	17
写真図版 3	小土坑群検出状況	18
写真図版 4	土坑跡 P 1	18
写真図版 5	土坑跡 P 2	18
写真図版 6	土坑跡 P 4	18
写真図版 7	小土坑群完掘状況	18
写真図版 8	遺物包含層	19
写真図版 9	完掘状況	19
写真図版 10	出土遺物(1)	20
写真図版 11	出土遺物(2)	21

調査経過

1. 調査に至る経過

平成20年に重茂小学校の建設が決定された。当該地は重茂遺跡群（遺跡コードLG75-0284）に含まれており、宮古市教育委員会との事前協議行われ、試掘調査の実施が決まった。試掘調査は平成19年12月に行われ、縄文時代の遺物包含層が確認された。

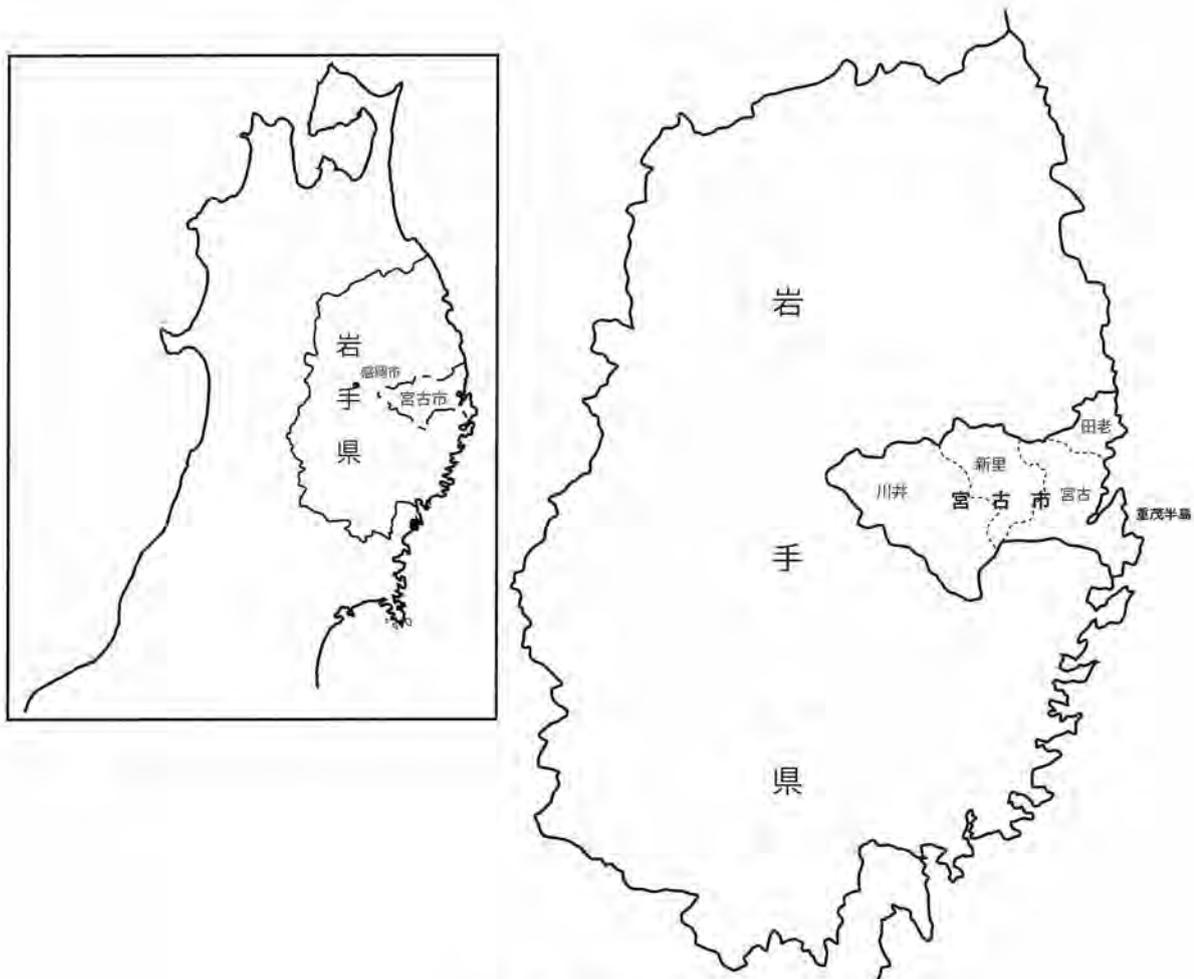
試掘調査の結果を受けて、宮古市教育委員会との協議が行われ、平成21年3月に本調査を実施することが決められた。本調査は予定通り平成21年3月に行われ本書はその結果を報告するものである。

2. 調査要旨

発掘調査地点	宮古市大字重茂第地割12番地
遺跡名	重茂館遺跡群（LG75-0284）
調査原因	重茂小学校改築
試掘調査	期間 平成19年12月4日～平成20年12月10日
調査面積	78㎡
本調査	期間 平成20年3月17日～平成21年4月4日
調査面積	202㎡
資料整理期間	平成21年12月14日～平成22年2月26日
出土遺構、遺物	小土坑群、縄文時代早期の遺物包含層

3. 調査体制

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	中屋 定基（平成10年度～平成21年度）
	〃	教育長	佐々木 敏夫（平成22年度～）
調査総括	元田 秀一	宮古市教育委員会	文化課長（平成19年度～平成20年度）
	上屋敷 正明	〃	文化課長（平成21年度）
	鳥居 茂	〃	文化課長（平成22年度）
	竹下 将男	〃	文化課長（平成23年度～）
事務担当	久坂 英夫	〃	文化課副主幹（平成21年7月～平成22年度）
	竹下 将男	〃	文化課文化財担当長（平成19年度～平成22年度）
	高橋 憲太郎	〃	文化課担当長（平成23年度～）
	高橋 憲太郎	〃	文化課主査（平成17年度～平成22年度）
	鎌田 祐二	〃	文化課主査
調査員	布谷 義彦	〃	文化課主任文化財調査員
	加納 由美	〃	文化課主任文化財調査員
	安原 誠	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川 真	〃	文化課主任文化財調査員
	阿部 豊	〃	文化課埋蔵文化財調査員
	江口 邦泰	〃	文化課埋蔵文化財調査員



第1図 宮古市位置図

発掘調査

山崎 日日雄 木村 常男 大下 義文 鳥居 義文 山屋 秋英
坂本 晃 山根 保行

資料整理

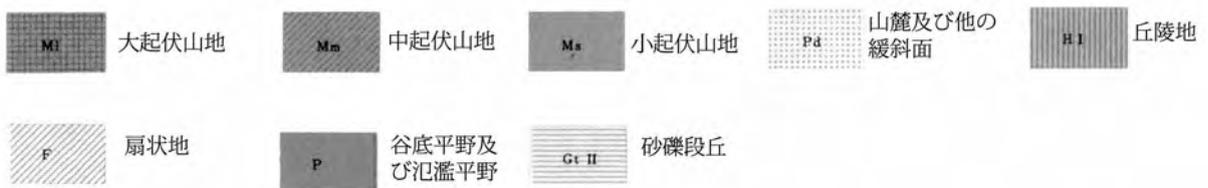
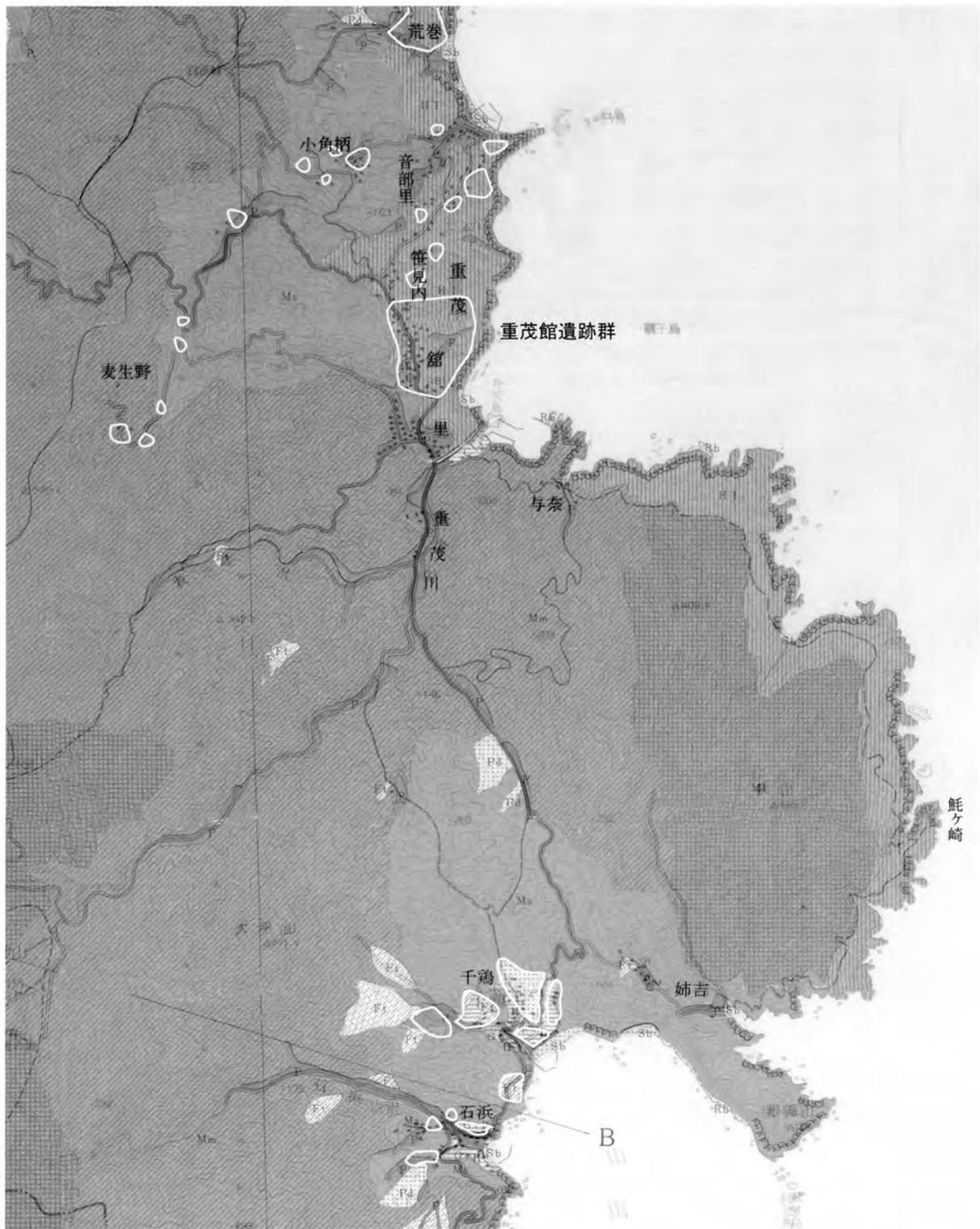
中村 明子

4. 遺跡の立地と環境

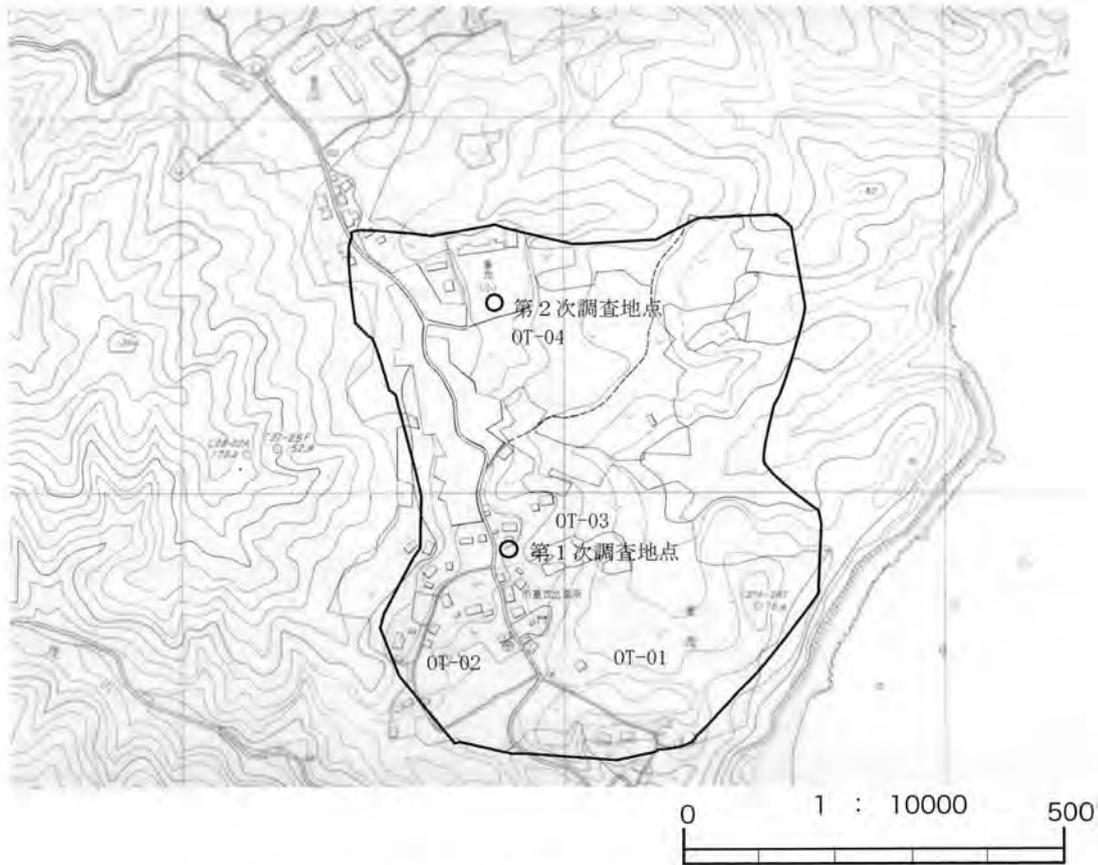
宮古市は三陸海岸の中央に位置する「海の町」であったが、隣村の新里村、川井村と合併し、北上産地をも併せ持つ「海と山の町」である。宮古市の東端に位置し、北東に突き出た重茂半島は、西側で宮古湾を形成し、東側の沿岸部は太平洋に臨む本州最東端の地として名高い。重茂館遺跡群は半島東側沿岸部のほぼ中央に位置する。

半島中央部の遺跡は、沿岸部の鮓ヶ崎丘陵に立地するものと、十二神山山地の小起伏山地に立地するものがあり、いずれも縄文時代を主体とした遺跡である。重茂館遺跡群は前者に属する。重茂館、重茂地区の調査来歴については「重茂館遺跡群 92」を参照されたい。

重茂遺跡群は、4ヶ所の遺跡 OT-01 から OT-04 を総称した遺跡名である。「重茂館遺跡群 92」では OT-03 地区から出土したかなり密度の濃い縄文時代中期の遺物包含層が報告されている。今回の調査地点は OT-04 地区である。



第2図 地形分類図、周辺の遺跡



第3図 重茂館遺跡群と調査地点

調査内容

1. 調査の方法

調査地点は校庭である。当初削平面を予想して試掘に当たったが、調査区南東部でわずかに残された遺物包含層が検出された。本調査では北側で小土坑群を検出した。

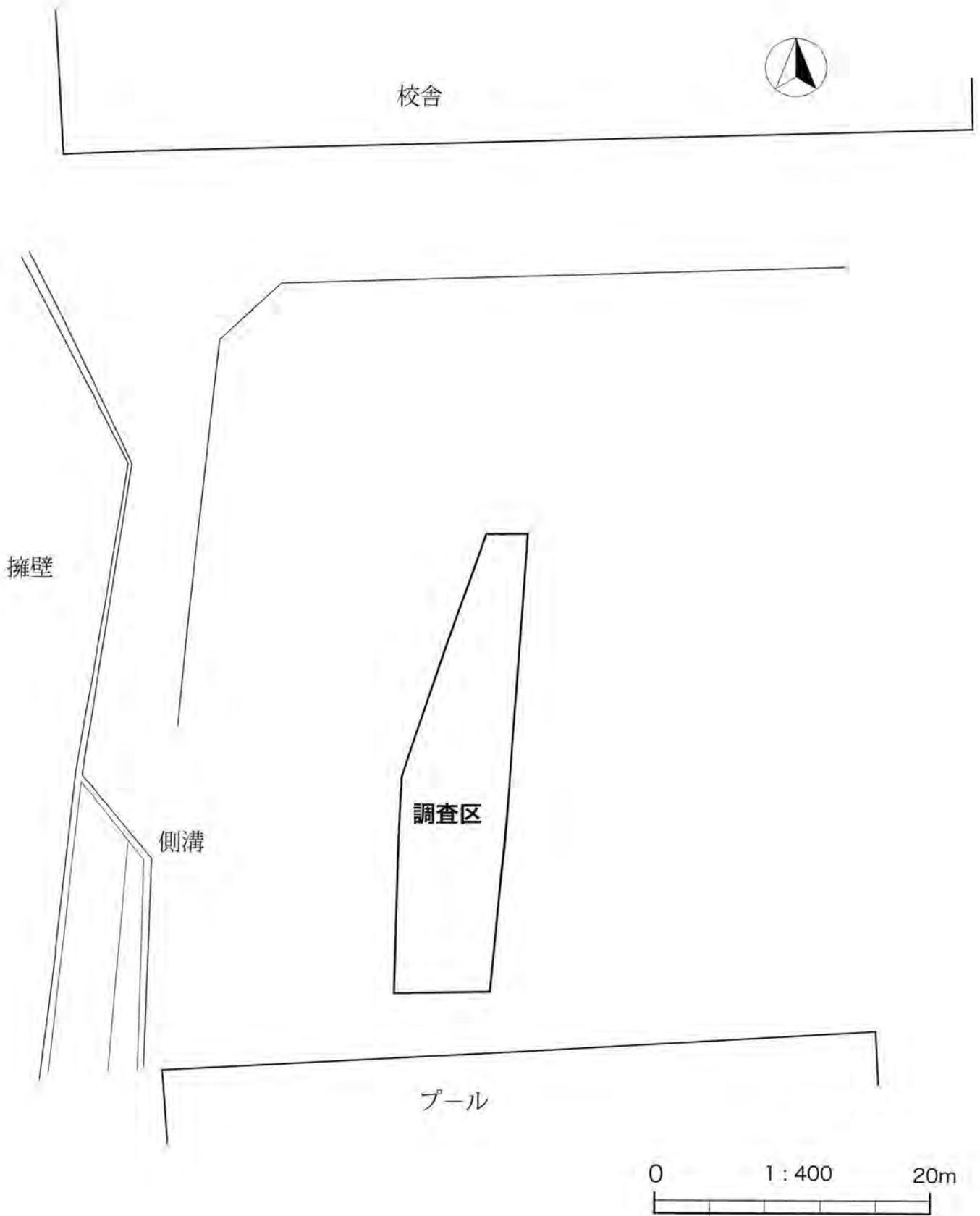
調査は、遺物包含層が施工区域にかかる部分を調査区とし、全区域を地山面まで掘下げる方法で行った。

2. 基本層序

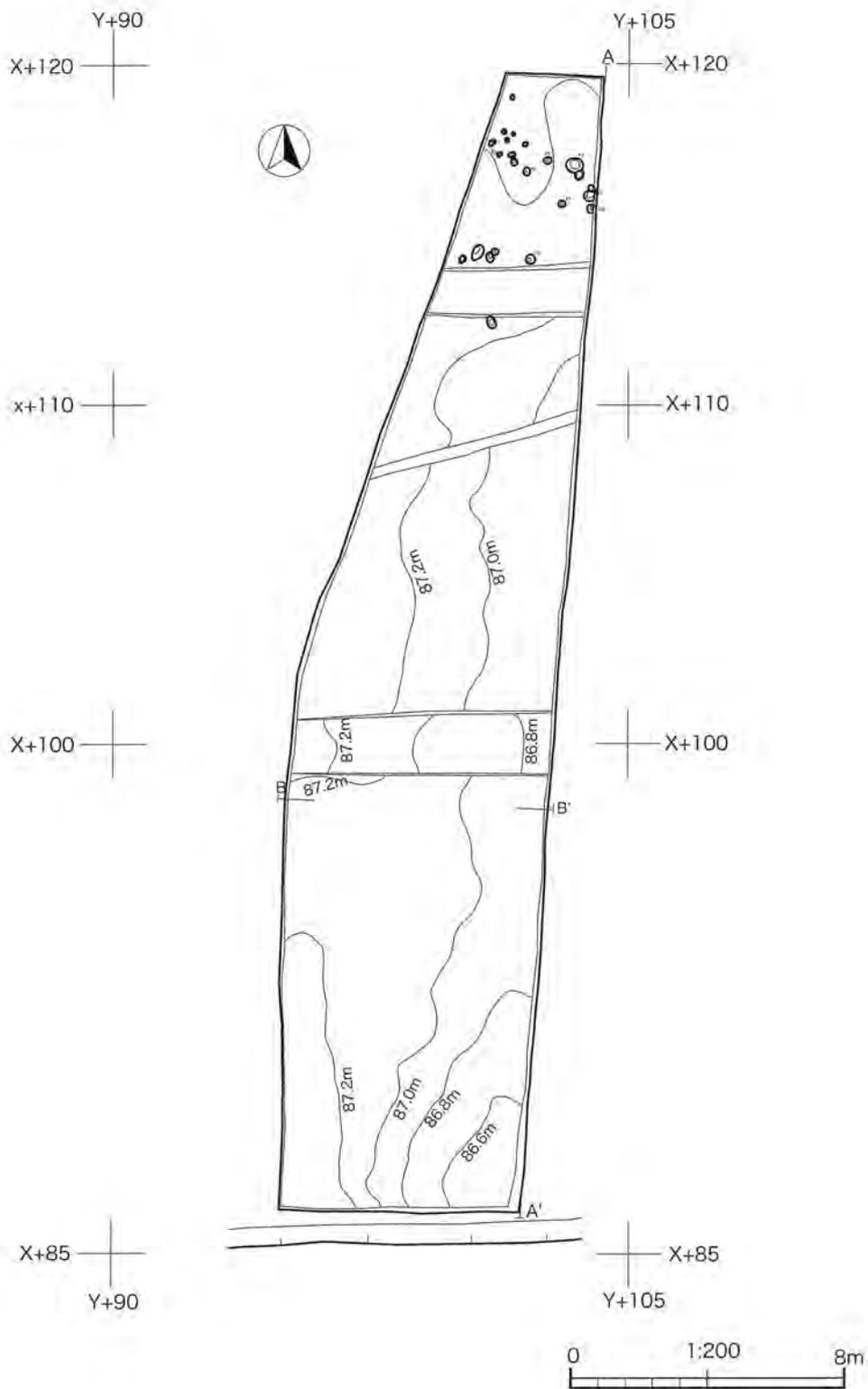
検出土層は3層に大別される。更に人工堆積層と自然堆積層に分かれ、A、B層は盛土層であり、C層が自然堆積層である。遺物はほとんどがC層から出土している。

A 1層は砂土である。A 2層は黄褐色土を主体とするシルト質壤土である。褐色土、暗褐色土が多く混入する混濁土である。A 3層は黒褐色土を主体とするシルト質壤土である。暗褐色土が混入する。旧表土層が運ばれてきたものと思われる。遺物は出土していない。

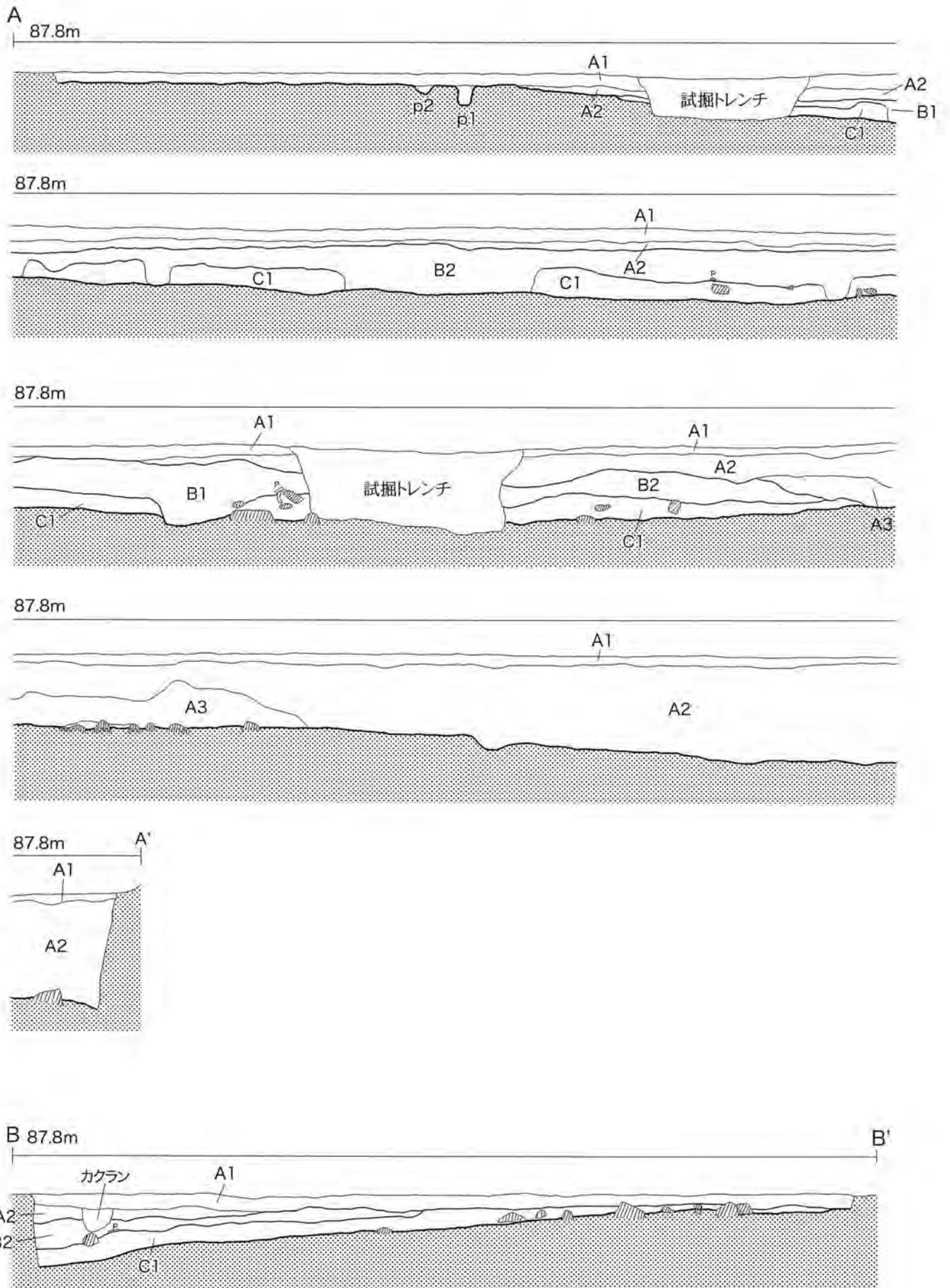
B 1層は暗褐色土を主体とするシルト質壤土である。褐色土、黄褐色土が混入する。



第4図 調査区



第5図 調査区全体図



第6図 調査区土層断面図

土層観察表

層名	基本土	混入土	土性、混入物など
A1 整地層	砂土		
A2 整地層	砂土、瓦礫		
A3 盛土層	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR3/1 黒褐色シルト質壤土 2%	固、密、塊状。旧表土アロク
B1 盛土層	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 10%	固、密、塊状。炭、焼土塊
B2 盛土層	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土 5%	固、密、塊状。炭、焼土塊
C1 自然堆積層	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%	固、密、塊状。土器多、炭粒、焼土

B 2 層は褐色土を主体とするシルト質壤土である。黄褐色土が塊状に多く混入する。少数の土器、少量の炭、焼土塊などを含む。

C 1 層は暗褐色土を主体とするシルト質壤土である。少量の黄褐色土が混じる。少量の炭粒、焼土塊などを含み、出土遺物のほとんどがこの層から出土している。

3. 検出した遺構、遺物

小土坑群（第 7 図 写真図版 3～7）

調査区の南部に位置し、検出面は地山面である。平面は円形である。規模は、比較的大きい p 4 で、径 40cm × 深さ 15cm、p 6 で径 25cm × 深さ 25cm である。埋土はいずれも類似しており、褐色のシルト質壤土を主体とする。少量の炭化物を含むものが多い。

出土遺物（第 8 図）

p 1、p 2、p 4 から縄文土器片が出土している。1 は p 4 から出土した深鉢の体部片である。内外面に縄文を施している。胎土は黒褐色で砂粒を多く含む。焼成は良くない。

小土坑群は埋設状況、出土遺物などから縄文時代早期末に伴うものと思われる。

遺物包含層

遺物包含層は調査区の南東部に残されていた。北東部は校庭を整地した際に削平されたものと思われる。遺物は東西ベルトの北側付近で、一括土器を含め、C 1 層から多数出土している。

出土遺物（第 9～12 図）

1～7 は 2 層から出土した土器である。3 は表裏に縄文が施される。

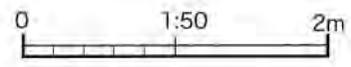
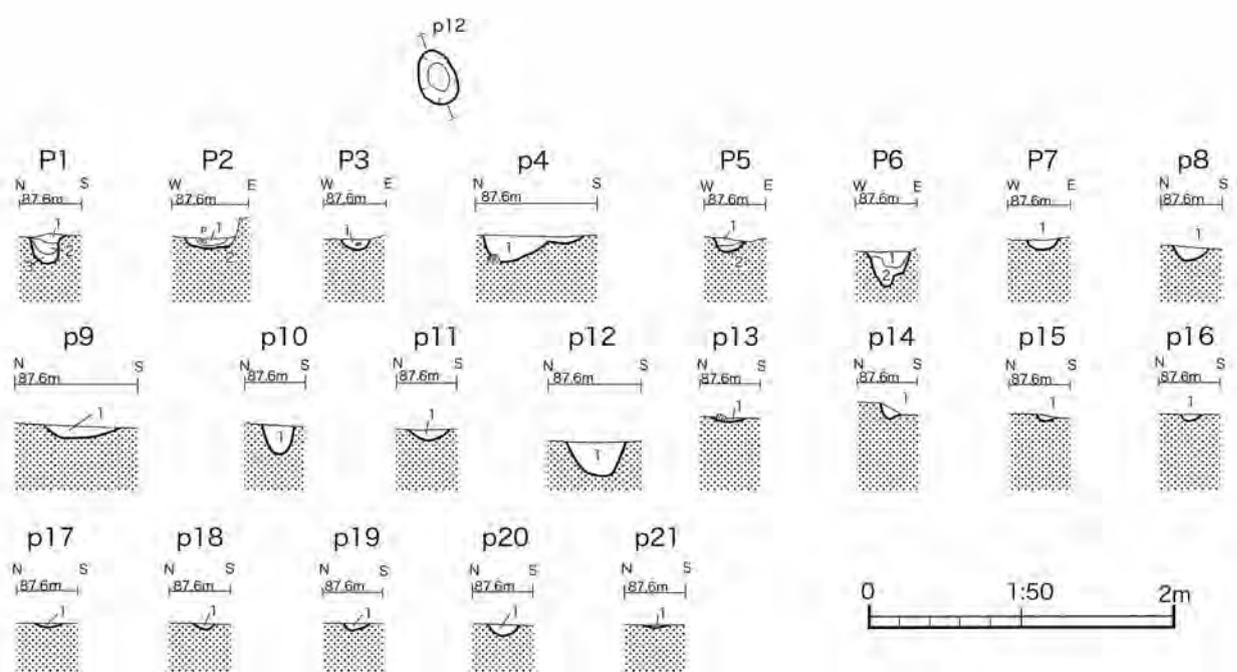
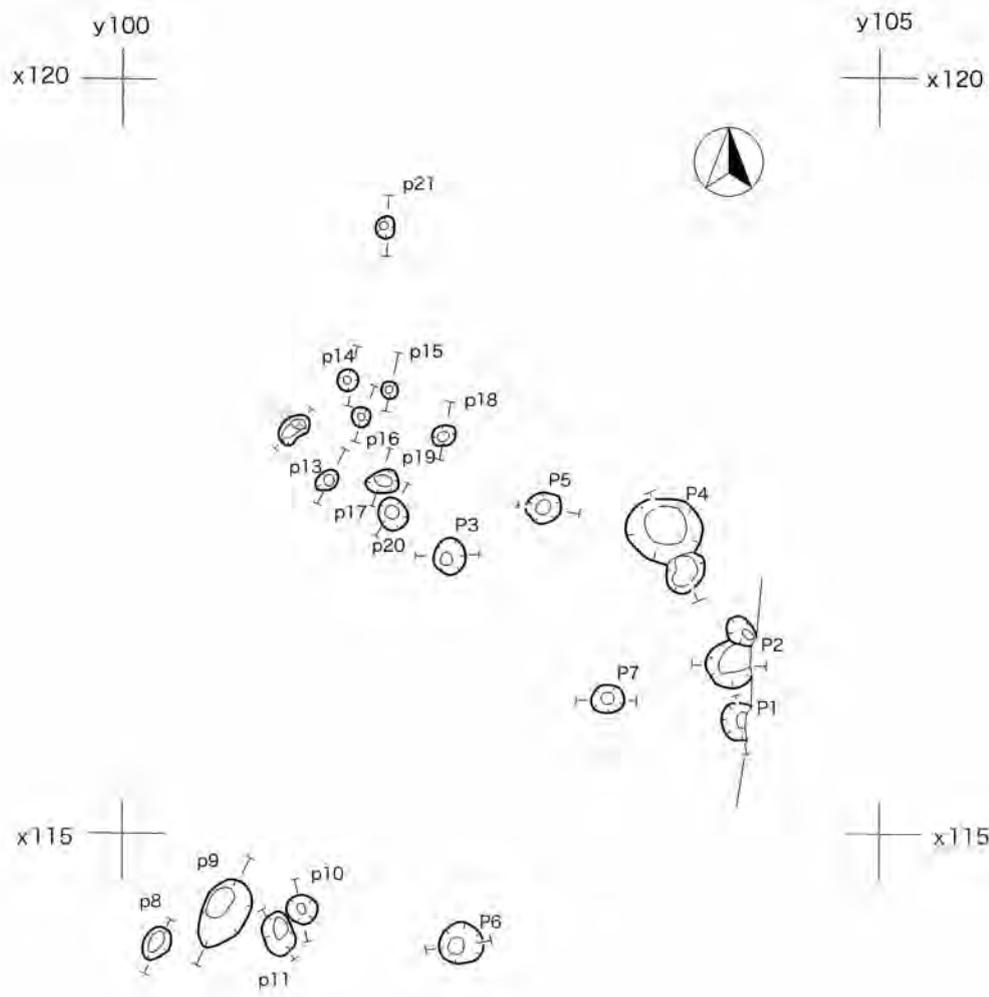
1～4 は深鉢の口縁部である。1、2 は口唇部に斜縄文を施す。1 の胎土は黒褐色～灰褐色、砂粒を多く含む。焼成は良くない。2 の胎土は赤褐色、砂粒、細礫を少量含む。焼成は良い。3 は口唇部に斜位の刻み目を持つ。胎土は赤褐色、砂粒が多く、少量の細礫を含む。4 の施文は束ねた縄によるものと思われる。5、6 は 4 と同じ文様で胎土も類似しており 4 と同一個体と思われる。胎土は暗褐色～赤褐色で、細礫を少量含む。焼成は良い。

7 は尖底土器の底部である。胎土は褐色、細礫を含む。焼成は良い。

8～25 は C 1 層から出土した土器である。

8～15 は表裏に縄文が施された深鉢である。

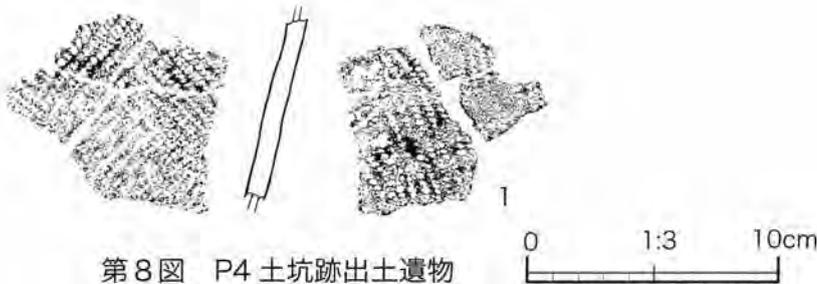
8 は口縁～体部である。口縁部はわずかに波状を呈する。補修孔をもつ。胎土は灰褐色～暗褐色、砂粒を多く含む。焼成はあまり良くない。9、10 は口縁部、11～15 は体部である。15 は内面下部に斜位の条痕文が施される。いずれも胎土は黒褐色～暗褐色、焼成はあまり良くないが、12 を除き、金雲母を多く含んでいるのが特徴である。



第7图 小土坑群平、断面图

土層観察表

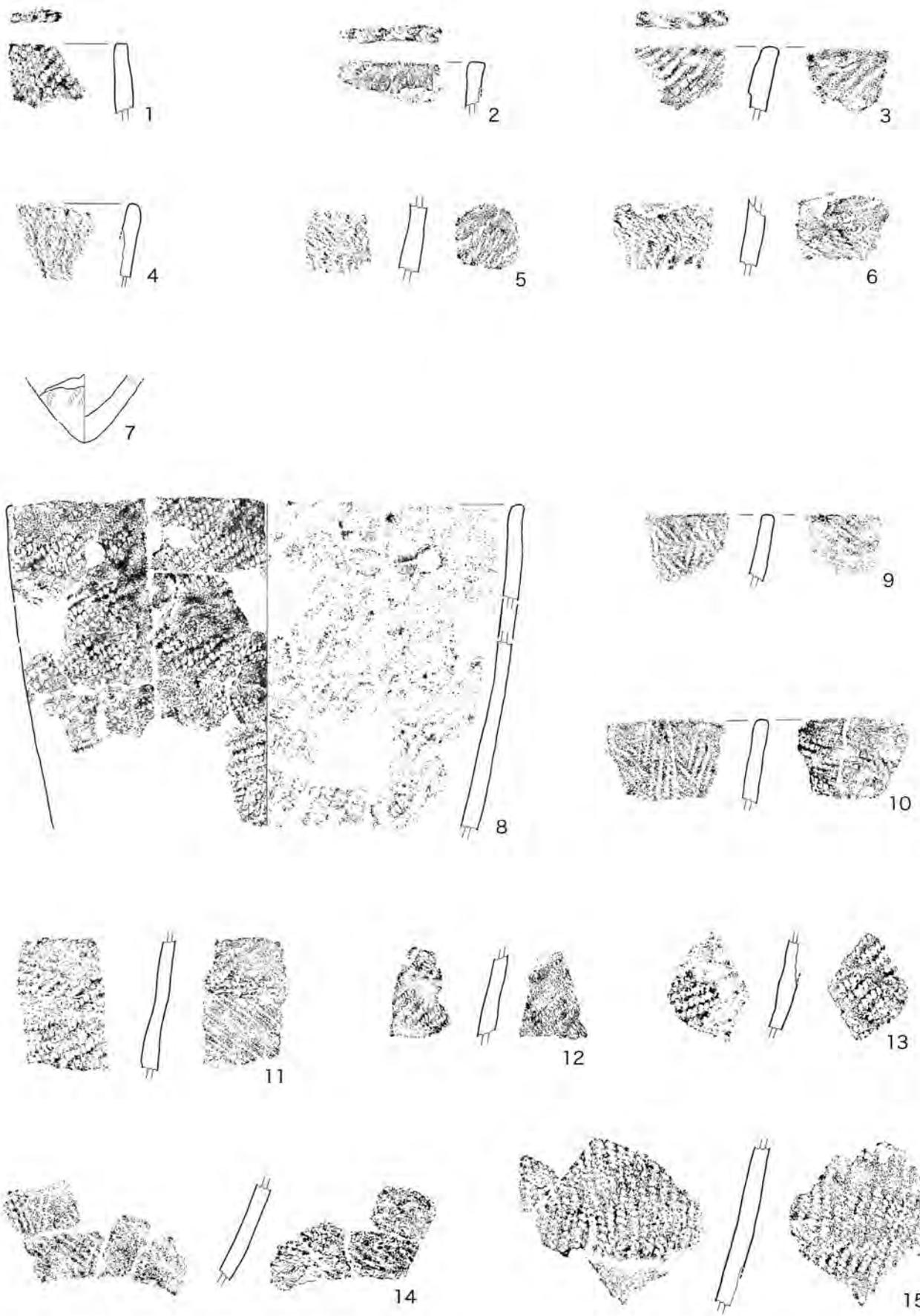
遺構番号	層名	基本土	混入土	土性、混入物など
P1	1	10YR4/4 褐色シト質壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土 1%	固、密
	2	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 1%	固、密
	3	10YR5/6 黄褐色シト質壤土	10YR4/6 褐色砂壤土 1%	密。炭化物少
P2	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR4/6 褐色砂壤土 1%	固、密。炭化物少
	2	10YR4/4 褐色シト質壤土	10YR6/8 褐色砂壤土 1%	固、密。炭化物少
P3	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密。炭化物少
P4	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密。炭化物少
P5	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密。炭化物少
	2	10YR5/6 黄褐色シト質壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 1%	固、密。炭化物少
P6	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密。炭化物少
	2	10YR4/4 褐色シト質壤土	10YR5/8 黄褐色シト質壤土	固、密。炭化物少
P7	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密。炭化物少
P8	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P9	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P10	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P11	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P12	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P13	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P14	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P15	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P16	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P17	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P18	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P19	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P20	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密
P21	1	10YR4/6 褐色シト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 5%	固、密



第8図 P4 土坑跡出土遺物

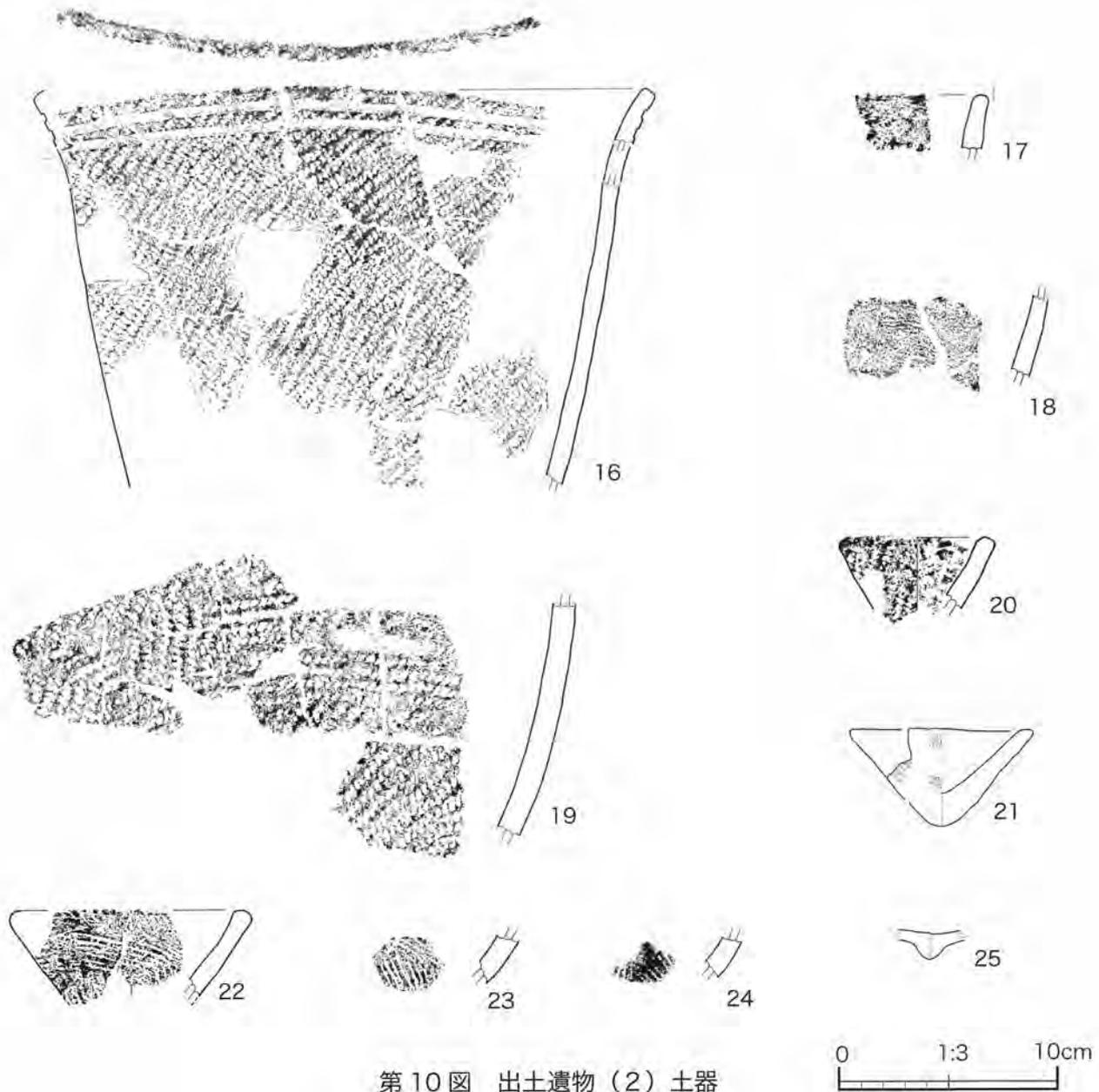
16 は深鉢の口縁～体部である。口縁部に二本の平行沈線をめぐらし、口唇部にも縄文を施す。補修孔をもつ。胎土は暗褐色、細礫を多く含む。焼成はあまり良くない。17 は口縁部である。器面は摩滅し、文様は不明である。胎土は暗褐色、砂粒、細礫を含む。焼成はあまり良くない。18、19 は深鉢の体部である。18 は外面に不明瞭ながら横位、縦位にハケメ調整が施され、内面には明瞭な横位のハケメが見られる。胎土は暗褐色、多くの砂粒と少量の細礫を含む。焼成はあまり良くない。19 は外面に斜位、横位の縄文が施されるが、内面に明瞭な調整痕はない。胎土は灰褐色、砂礫を多く含む。焼成はあまり良くない。

20～24 はミニチュアの土器である。20 は表裏に縄文が施される。胎土は暗赤褐色、少量の細礫を含む。焼成は良いほうである。21 は内面の施文はない。胎土は暗褐色、多くの砂粒、少量の細礫を含む。焼成は良いほうである。22～24 は同一個体である。撚糸文を横位、縦位に施す。胎土は黒褐色、少量の細礫を含む。焼成はあまり良くない。25 は尖底土器の底部先端部分と思われる。器厚は薄く、無文である。胎土は黒褐色～灰褐色、少量の細礫を含む。焼成は良いほうである。



第9図 出土遺物(1) 土器

0 1:3 10cm



第10図 出土遺物(2) 土器

第11図は剥片石器である。

26～29はB層から出土した石器である。

26、27は石匙である。26は刃部末端が尖り、表裏面周縁部を加工する。27は刃部末端は尖らず、表の周縁部を加工する。

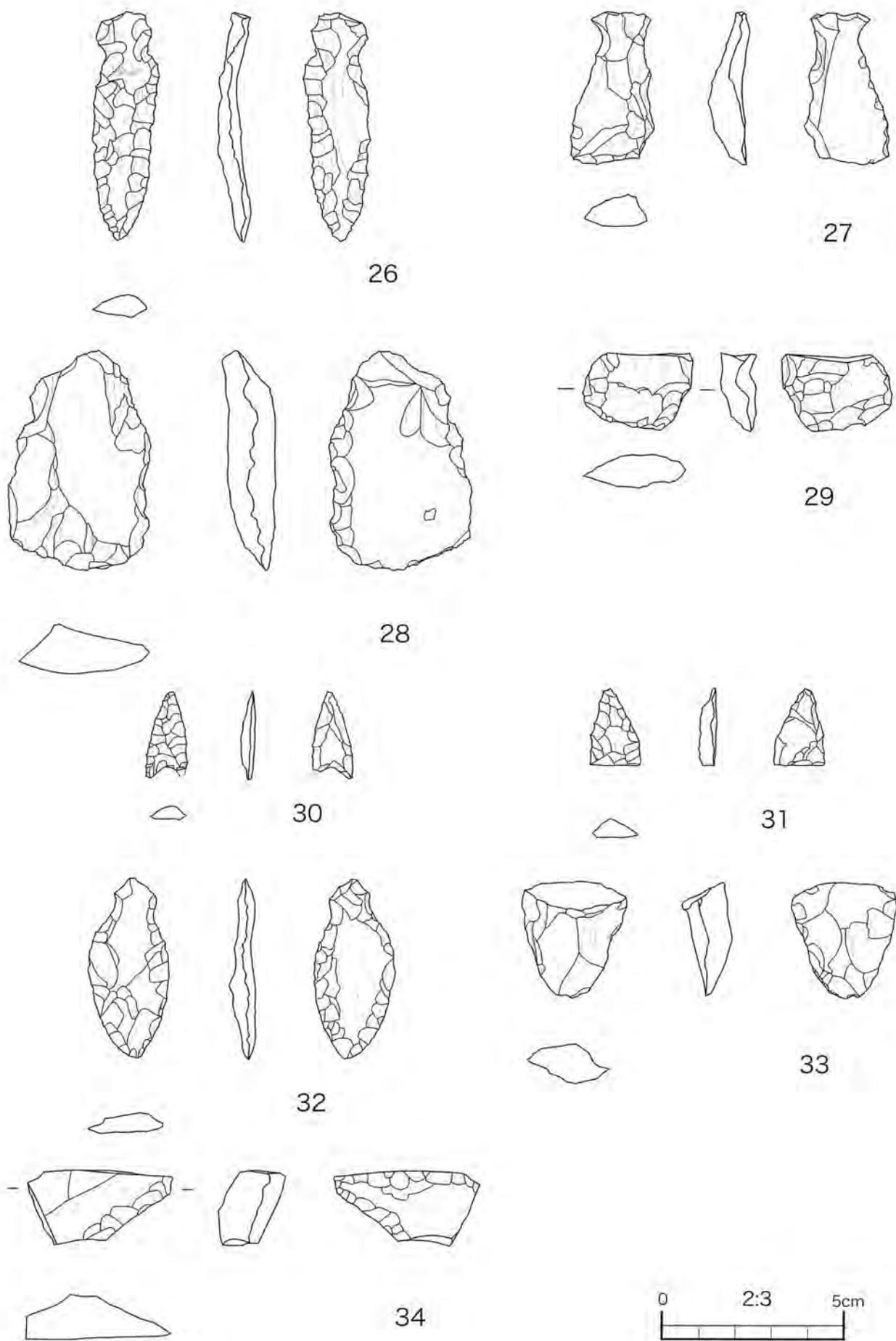
28は石篋である。丸みをもった撥形である。表裏面の周縁部を加工する。29は不定形の石器である。表裏面を加工して弧状の刃部を作り出している。

30～34は3層から出土した石器である。

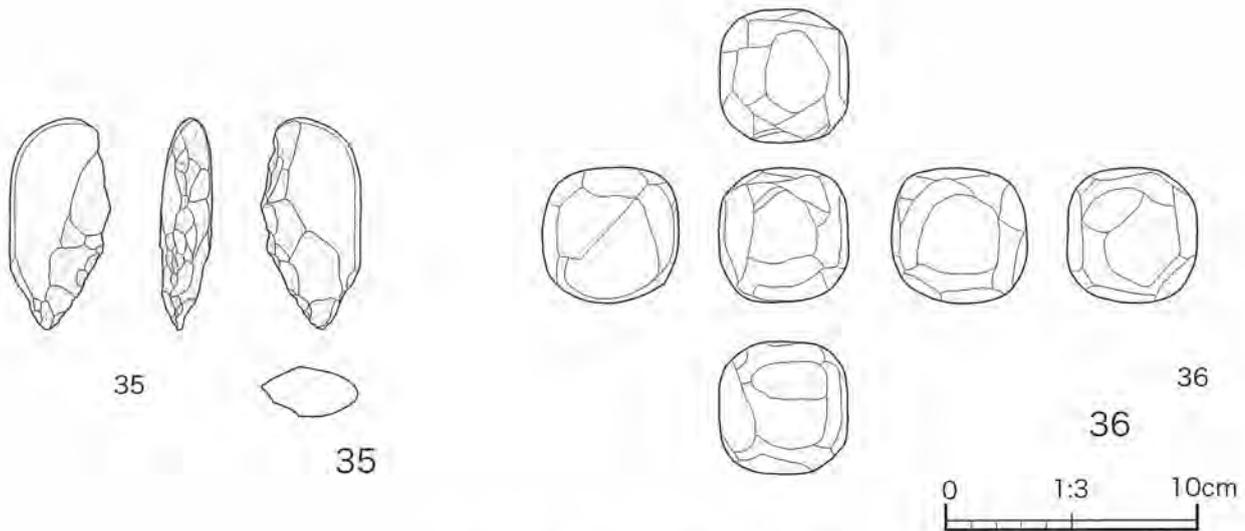
30、31は石鏃である。30は凹基で、側縁がわずかにふくらみ鋭角三角形である。31は平基で、側縁がわずかにふくらみ二等辺三角形である。

32は石匙である。刃部末端が尖り、表裏面の周縁部を加工して刃部を作り出している。

33、34は不定形の石器である。33は弧状の表裏面を加工して刃部を作り出している。34は刃部末端を尖らせ、直刃を作り出している。



第11図 出土遺物(3) 石器



第 12 図 出土遺物（4）石器

第 12 図は C 1 層から出土した礫石器である。

35 は不定形の石器である。刃部末端を尖らせ、表裏の周縁部を加工して凸刃を作り出している。36 は円礫の全面に面取り加工を施し、方形を呈する多面体を作る。用途は不明である。

4. 調査のまとめ

土坑跡について

調査区の北側で一群の小土坑跡を検出した。時期は、遺物から包含層と同じ縄文時代早期末葉に伴うものと思われる。土坑の性格については、竪穴住居跡の柱跡である可能性が高いが、配置などから特定することはできなかった。

遺物包含層について

主に調査区北側に堆積していた包含層である。遺物の特徴から縄文時代早期末葉に伴うものと考えられる。

周辺の地形から調査区の南側で東西方向に延びていた尾根を削平して学校が建てられたものと思われる。土坑跡、包含層の出土状況からみて、遺跡の主体部はすでに削平された調査区の南西部にあったものと推定される。

今回の調査区は、重茂館遺跡群のなかでも北側に位置する（OT－4）。一次調査が行われた南側の調査地点（OT－3）では、縄文時代中期のかなり濃密な遺物包含層が検出している。今回の調査では、縄文時代早期の遺物包含層が検出されたことで、一次調査の結果のみならず半島での他の調査例を含めてみた場合、あらためて半島での遺跡の広がりやの大きさ、層の厚さが確かめられたことになる。

写真図版

写真図版 1



試掘調査。三箇所を試掘トレンチを設ける（西から）

写真図版 2



試掘調査。北側のトレンチ。遺物を含んだ土層を検出。（東から）

写真図版3



調査区北側。小土坑群の検出状況（南から）

写真図版4



土坑跡 P1

写真図版5



土坑跡 P2

写真図版6



土坑跡 P4

写真図版7



小土坑群完掘状況（南から）

写真図版 8



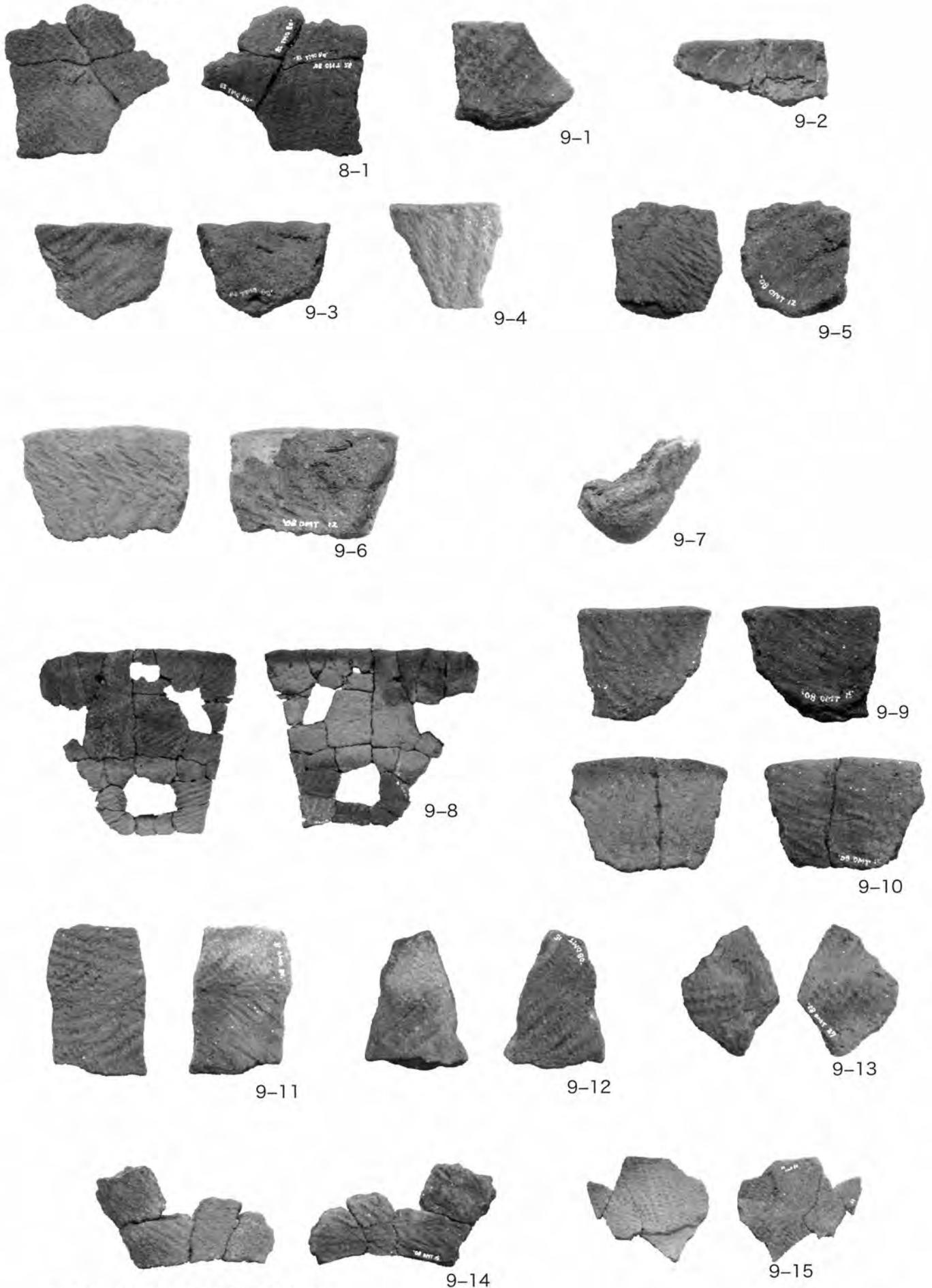
遺物包含層。土器の出土状況（AA'断面とBB'ベルトの交点付近）

写真図版 9



完掘状況（北から）

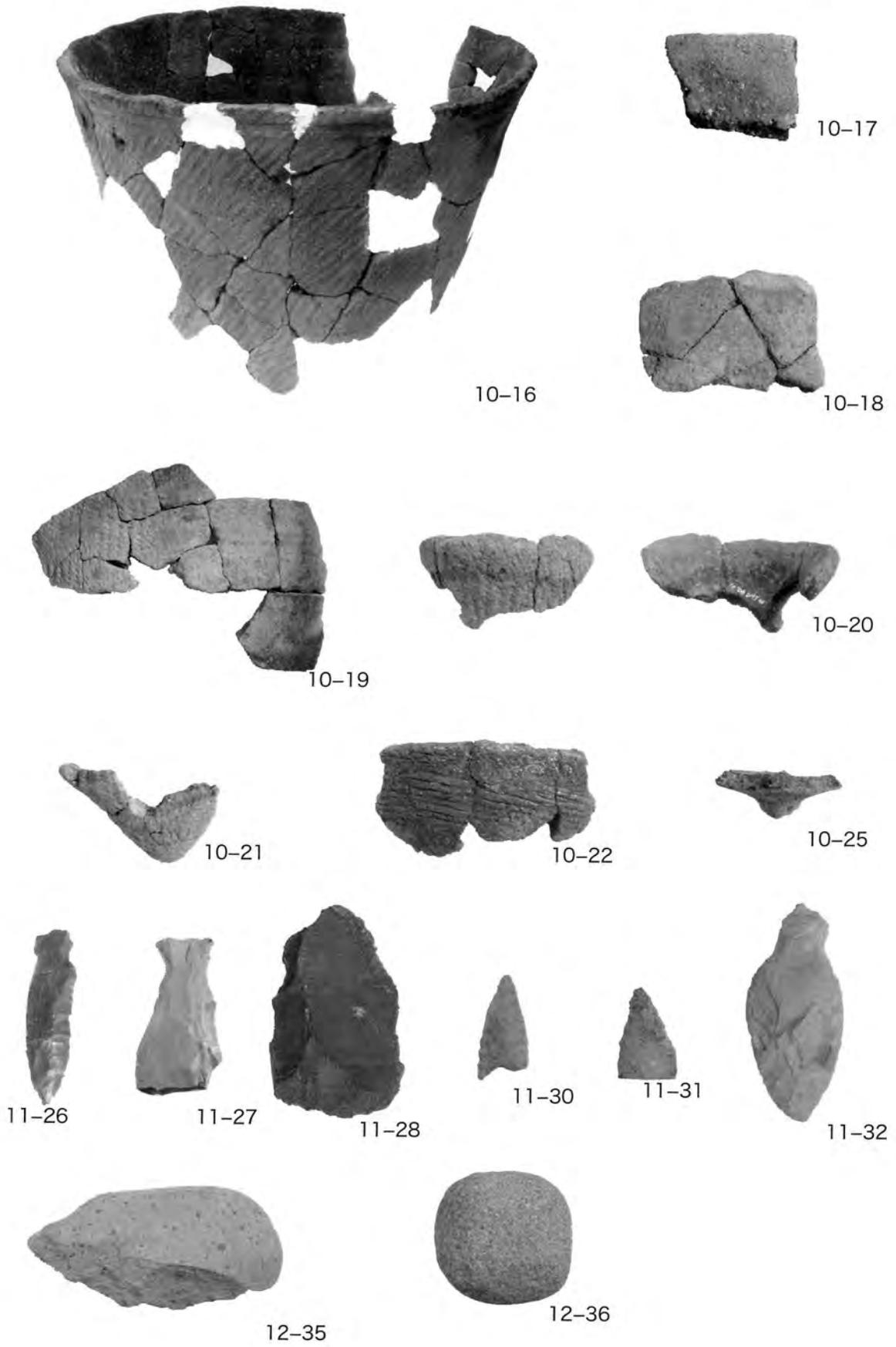
写真図版 10



※番号は図版-遺物番号である。

出土遺物(1)

写真図版 11



報告書抄録

ふりがな	おもえたていせきぐん
書名	重茂館遺跡群
副書名	第2次調査
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	79
編著者名	阿部 豊
編集機関	岩手県宮古市教育委員会
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市 2-112-1 Tel. 0193-72-2176
発行年月日	平成24年3月20日(2012年)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号				
おもえたていせきぐん 重茂館遺跡群	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおもだおもえたてい2 大字重茂第2 ちわり12ほんち 地割12番地	3202	LG75-0284	39° 35' 5"	142° 1' 18"	試掘調査 191204 ~ 191210 本調査 200317 ~ 200404	78㎡ 202㎡

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
重茂館遺跡群	散布地	縄文時代早期末	小土坑群 遺物包含層	縄文土器、石器

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- | | |
|---|--|
| <p>1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』</p> <p>2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』</p> <p>3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書 1』</p> <p>4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書 2』</p> <p>5 1984 『赤前遺跡群第 1 次・第 2 次発掘調査報告書』</p> <p>6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書 3』</p> <p>7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』</p> <p>8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書 4』</p> <p>9 1986 『宮古市遺跡分布図－昭和 60 年度版－』</p> <p>10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』</p> <p>11 1987 『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』</p> <p>12 1987 『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』</p> <p>13 1987 『崎山遺跡群Ⅰ－昭和 61 年度発掘調査概報－』</p> <p>14 1988 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(掘合館)』</p> <p>15 1988 『崎山遺跡群Ⅱ－昭和 62 年度発掘調査概報－』</p> <p>16 1989 『千鶏遺跡－昭和 62 年度発掘調査報告書－』</p> <p>17 1989 『トロノ木Ⅰ遺跡－第 1 ～ 7 次発掘調査報告書－』</p> <p>18 1989 『崎山遺跡群Ⅲ－昭和 63 年度発掘調査概報－』</p> <p>19 1989 『高根遺跡－昭和 63 年度発掘調査報告書－』</p> <p>20 1989 『狐崎Ⅱ遺跡－昭和 63 年度発掘調査報告書－』</p> <p>21 1989 『崎山トロノ木IV遺跡－昭和 63 年度調査報告書－』</p> <p>22 1990 『狐崎遺跡－平成元年度発掘調査報告書－』</p> <p>23 1990 『崎山遺跡群IV－平成元年度発掘調査概報－』</p> <p>24 1990 『磯鶏館山遺跡－昭和 63 年度発掘調査報告書－』</p> <p>25 1990 『嫩々崎館山貝塚－平成元年度発掘調査報告書－』</p> <p>26 1991 『崎山遺跡群V－平成 2 年度発掘調査概報－』</p> <p>27 1991 『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群－平成元年・2 年度発掘調査報告書－』</p> <p>28 1990 『熊野町遺跡－昭和 63 年度発掘調査報告書－』</p> <p>29 1991 『弘川Ⅰ遺跡－平成 2 年度発掘調査報告書－』</p> <p>30 1992 『金浜Ⅰ遺跡(昭和 58 年度)・大付遺跡(平成 2 年度)発掘調査報告書』</p> <p>31 1992 『重茂館遺跡群－第 1 次調査報告書－』</p> <p>32 1992 『黒森町Ⅰ遺跡－平成 2 年度発掘調査報告書－』</p> <p>33 1992 『高根遺跡－平成 3 年度発掘調査報告書－』</p> <p>34 1992 『鯉沢遺跡群－平成 2 年度発掘調査報告書－』</p> <p>35 1992 『大付遺跡－平成 3 年度発掘調査報告書－』</p> <p>36 1992 『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡－農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書－』</p> <p>37 1992 『崎山遺跡群VI－平成 3 年度発掘調査概報－』</p> <p>38 1993 『萩沢Ⅱ遺跡－平成 4 年度発掘調査報告書－』</p> <p>39 1993 『早稲橋Ⅱ遺跡－第 1 次・第 2 次発掘調査報告書－』</p> <p>40 1993 『崎山遺跡群VII－平成 4 年度発掘調査概報－』</p> <p>41 1994 『崎山遺跡群VIII－平成 5 年度発掘調査概報－』</p> <p>42 1995 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡－平成 4 年度発掘調査報告書－』</p> <p>43 1995 『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』</p> <p>44 1995 『崎山貝塚－範囲確認調査報告書－』</p> | <p>45 1995 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡・市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財』</p> <p>46 1995 『花原市遺跡－平成 4 年度発掘調査報告書－』</p> <p>47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』</p> <p>48 1996 『大付遺跡－平成 5 年・6 年度発掘調査報告書－』</p> <p>49 1997 『花原市遺跡－平成 8 年度発掘調査報告書－』</p> <p>50 1997 『白石遺跡－第 6 次発掘調査報告書－』</p> <p>51 1998 『赤畑・天神山・山口館－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』</p> <p>52 1998 『藤畑遺跡－平成 9 年度発掘調査報告書－』</p> <p>53 1999 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡－水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』</p> <p>54 1999 『千鶏Ⅳ遺跡－水産課千鶏地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』</p> <p>55 1999 『崎山貝塚－第 12 次・13 次内容確認調査概報－』</p> <p>56 2000 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡－特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書－』</p> <p>57 2002 『山口館跡－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』</p> <p>58 2002 『沢Ⅱ大上遺跡－市内遺跡発掘調査報告書 2－』</p> <p>59 2003 『大又沢Ⅱ遺跡－東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書－』</p> <p>60 2003 『上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡－市内遺跡発掘調査報告書 3－』</p> <p>61 2003 『早稲橋Ⅱ遺跡第 6 次調査－市内遺跡発掘調査報告書 4－』</p> <p>62 2003 『下在家Ⅰ遺跡－平成 14 年度発掘調査報告書－』</p> <p>63 2004 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡－市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書－』</p> <p>64 2005 『弘川館跡－瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書－』</p> <p>65 2006 『高浜Ⅵ地神遺跡－高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書－』</p> <p>66 2006 『崎山貝塚第 20 次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第 7 次調査－市内遺跡発掘調査報告書 5－』</p> <p>67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡－市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書－』</p> <p>68 2006 『木戸井内Ⅳ遺跡－宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書－』</p> <p>69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査－市内遺跡発掘調査報告書 6－』</p> <p>70 2007 『山口館跡－市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』</p> <p>71 2007 『近内館跡－宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書－』</p> <p>72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第 11 次調査－市内遺跡発掘調査報告書 7－』</p> <p>73 2007 『弘川館跡第 2 次調査－宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書－』</p> <p>74 2008 『荷竹日向Ⅳ遺跡－市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書－』</p> <p>75 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書 5』</p> <p>76 2009 『崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報(骨角器篇)』</p> <p>77 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書 6』</p> <p>78 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書 7』</p> |
|---|--|

宮古市埋蔵文化財調査報告書 79

重茂館遺跡群

印刷・発行 平成 24 (2012) 3 月

発行 宮古市教育委員会
〒028-2101 岩手県宮古市茂市 2-112-1
TEL 0193-72-2175
FAX 0193-72-2176

印刷 花坂印刷工業株式会社
〒027-0066 岩手県宮古市田の神 1-2-32
TEL 0193-62-4154
FAX 0193-64-0212

